

掃海から見る 昭和・平成・令和史
日本の海運を支えた
掃海隊



好評につき会期延長!!

令和3年 10月22日(金) ▶ 令和4年 9月26日(月)

てつのくじら館
海上自衛隊呉史料館 JMSDF KURE MUSEUM

開館時間 10:00~18:00
(最終入館 17:30)

休館日 火曜日(祝日の場合は翌日)
※7月20日Ⓞ、9月7日Ⓞ(臨時休館)

写真 掃海艦「ひらど」 入館無料
(出典：海上自衛隊HP)

〒737-0029 広島県呉市宝町5-32
TEL:0823-21-6111 FAX:0823-32-1601

てつのくじら | 検索

掃海から見る 昭和・平成・令和史 日本の海運を支えた掃海隊



日本の戦後史を形作ってきた海上自衛隊掃海部隊

第二次世界大戦中、アメリカ軍によって日本近海に大量に敷設された機雷は、終戦を迎えても無力化されることなく漂い続けていました。戦後復興の第一歩として、艦艇や民間船舶が安全に航行するための航路を確保することは、重要な任務だったのです。掃海部隊は多くの犠牲を伴いながらも機雷を処分し、日本の海運を支えてきました。

今回はその中でも、瀬戸内海の浅海域を専門に掃海を行った部隊『第101掃海隊』を取り上げ、特殊な環境下での掃海技術や、今なお続く機雷の脅威、掃海部隊の活動の一部を紹介します。



第101掃海隊



機雷とは？



掃海艇の記念品

第101掃海隊は海上自衛隊黎明期から瀬戸内海の掃海を行ってきた部隊で、日本の高度経済成長を海運の面から支えた縁の下の力持ちのような存在でした。呉基地で最初に編成された掃海隊で、海上自衛隊呉史料館(てつのくじら館)の近くに拠点があり、呉に住む人にとって馴染み深い存在でした。

昭和・平成・令和の3つの時代を呉とともに歩みましたが、装備の老朽化等の理由で2020年(令和2年)10月1日に解体されました。

本企画展では、63年間に渡る第101掃海隊の活躍を振り返ります。

「地雷」という言葉を耳にしたことがある方は、比較的多いのではないかと思います。

それでは、「機雷」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。海上自衛隊の重要な任務の1つに、機雷を相手にした「対機雷戦」というものがあります。

機雷とは一体何なのでしょう。対機雷戦の歴史や技術の変遷とともに解説します。

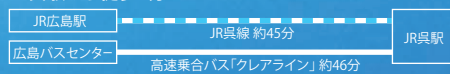
当館の收藏品等の中から、第101掃海隊や掃海艇にまつわる記念品を集めて展示します。各部隊のユニークなマークをあしらった部隊識別帽にもご注目ください。



部隊識別帽などの展示品の一部はミュージアムショップでも取り扱っております。

アクセス

電車・バス …… JR呉駅から徒歩5分



自動車 …… クレアライン 呉ICから約5分
山陽自動車道 高屋ICから約50分

当館の駐車場は「大和ミュージアム」と共用になっております。当館前の「大和ミュージアム」の駐車場をご利用下さい。

フェリー …… 呉中央棧橋から徒歩2分

新型コロナウイルス感染予防対策にご協力をお願いします。

新型コロナウイルス感染防止対策の為、通常時と異なるご案内(入場制限等)を行う場合がございます。当館ホームページ等で最新情報をご確認のうえ、ご来館ください。



〒737-0029 広島県呉市宝町5-32 海上自衛隊呉史料館 JMSDF KURE MUSEUM
TEL 0823-21-6111 / FAX 0823-32-1601
https://www.jmsdf-kure-museum.go.jp

